

2026年卒業予定者の採用選考が6月1日に正式に解禁されてから1カ月が経ち、就職採用戦線は大きな山を越えた。7月1日現在のキャリタス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は高水準ながらも、前年実績をやや下回っていることがわかった。

前年同時期調査との比較や、先月調査(6月調査)からの変化に着目して、ここまでの活動状況を分析したい。

## 1. 7月1日現在の内定状況 (※)

- 内定率は87.3%。前年同期実績(89.7%)を2.4ポイント下回る
- 6月時点(83.7%)より3.6ポイント上昇
- 就職活動終了者は全体の74.8%。継続者は「内定あり」「内定なし」を合わせて25.2%

## 2. 7月1日現在の就職活動量

- 一人あたりのエントリー社数の平均は25.3社。前年同期(25.9社)より0.6社減
- ES提出は約2社減少(13.8社→12.0社)。筆記、面接ともに前年同期を下回る

## 3. 就職活動継続学生の動向

- 選考中企業1.7社、これから受験予定1.5社で、継続学生の持ち駒企業数は平均3.2社
- 今後の方針「新たな企業を探して幅を広げる」が最多
- 見直すことは「志望業界」(29.1%)、「志望職種」(24.8%)、「企業規模」(14.2%)の順

## 4. 就職決定企業について

- 就職決定業界は文理とも「情報処理・ソフトウェア」が最多。理系は「電子・電機」も同率1位
- 知ったきっかけは「就職情報サイト」が最多。「就活前から知っていた」が次点
- この企業で働きたいと思ったタイミングは「インターンシップ等に参加したとき」が今年も最多

## 5. 就職決定企業の内定者集合

- 調査時点で「内定者集合があった」41.2%。前年同期(41.0%)と同水準
- 参加形式は、今年も対面が主流(対面:75.3%、オンライン24.7%)

## 6. 就職環境への考え(売り手市場の実感)

- 売り手市場だと感じる学生は全体の56.6%。3年連続で半数を超える

※「内定」には、内々定を含む

※「インターンシップ」に限定せず、1日以内のプログラム等も含めて尋ねた

## 調査概要

- 調査対象：2026年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)  
回答者数：1,073人(文系男子207人、文系女子476人、理系男子249人、理系女子141人)  
調査方法：インターネット調査法  
調査期間：2025年7月1日～7日  
サンプリング：キャリタス就活 学生モニター2026  
調査実施：株式会社キャリタス/キャリタスリサーチ

## 1. 7月1日現在の内定状況

7月1日現在の学生モニターの内定率は87.3%。高水準ながらも、前年実績(89.7%)を2.4ポイント下回った。今期の内定率は、広報解禁前の2月調査で約4割に達するなど(39.9%)、早期化の進行が顕著に表れていた。3月以降は前年同月との差は徐々に縮まり、5月時点で前年実績を僅かに下回った。6月・7月と月を追うごとに内定獲得のペースは鈍化し、前年同月との差が開いてきた格好だ。

内定率を属性別に確認すると、男子に比べ女子で高く、女子は文理とも約9割に達している(文系女子89.3%、理系女子92.9%)。また、男子は前年実績をそれぞれ4ポイントあまり割り込んでおり、内定率の低下は主に男子学生の伸び悩みが要因との見方もできる。

内定取得学生のうち、就職先を決めて就職活動を終了したのは76.9%で、6月調査(63.0%)から大きく上昇。選考解禁を迎え本命企業の結果が出たことで、活動を終える学生が多かったとみられる。

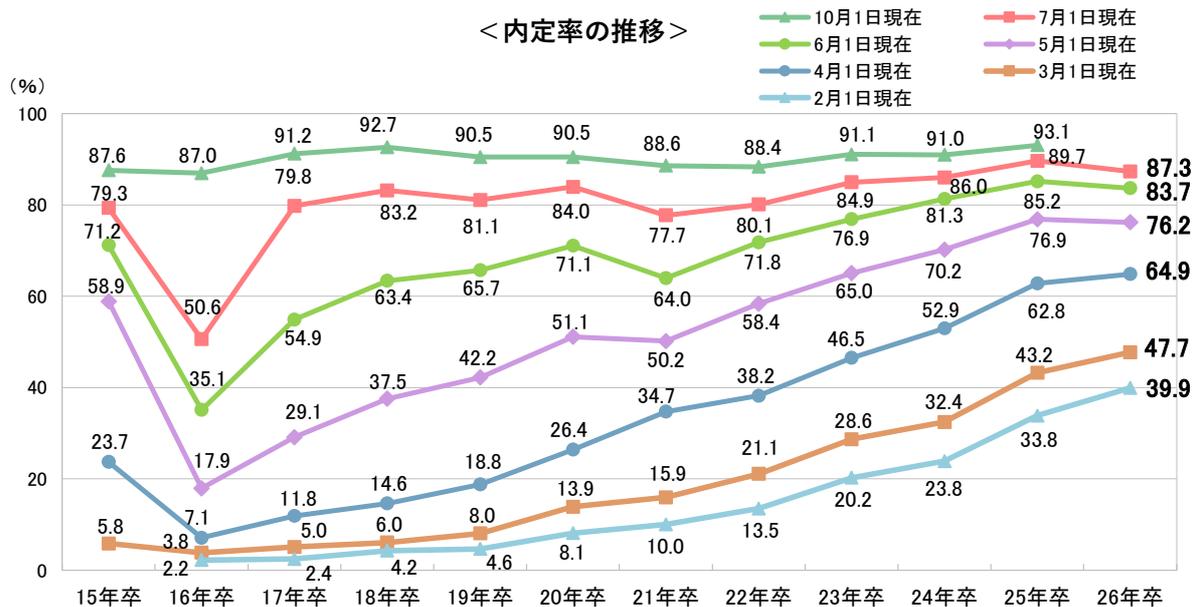
なお、内定取得学生の多くが複数の企業から内定を得ており、内定社数の平均は2.5社に上る。

<7月1日現在の内定状況> \*「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		87.3 (89.7)	84.1 (88.4)	89.3 (88.2)	85.9 (90.8)	92.9 (93.7)
内定なし		12.7 (10.3)	15.9 (11.6)	10.7 (11.8)	14.1 (9.2)	7.1 (6.3)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	76.9 (81.6)	70.7 (76.2)	73.9 (77.5)	91.1 (85.8)	80.2 (94.0)
	活動は終了したが複数内定保持	8.1 (6.1)	11.5 (8.8)	8.5 (8.3)	3.3 (2.8)	6.1 (1.3)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.5 (1.2)	0.0 (0.8)	0.2 (0.6)	0.0 (2.4)	3.8 (1.3)
	就職活動継続	14.4 (11.1)	17.8 (14.2)	17.4 (13.7)	5.6 (8.9)	9.9 (3.4)

		(社)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.5 (2.6)	2.6 (2.8)	2.6 (2.7)	2.3 (2.4)	2.2 (2.6)

※( )内は前年(7月1日現在)の数値

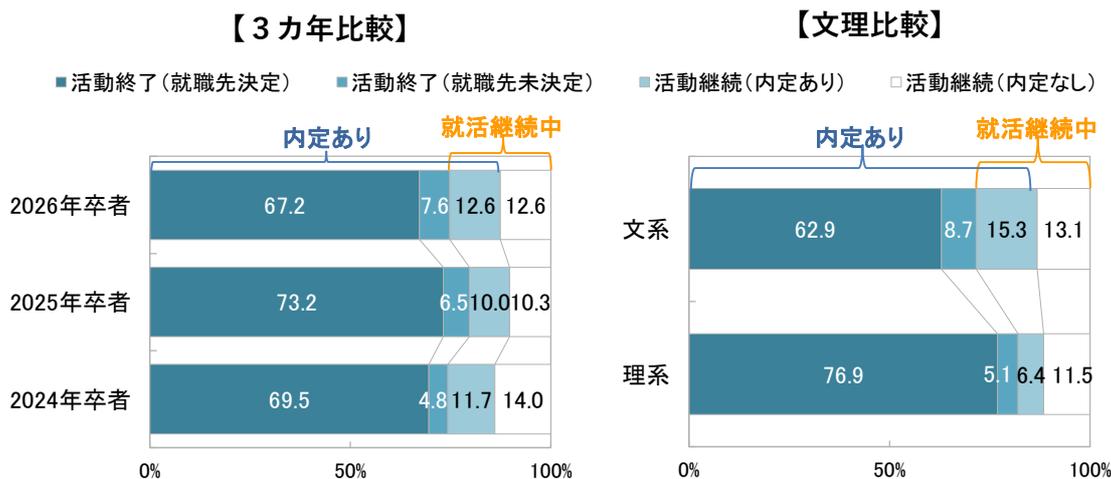


※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~26年卒は6月

回答者全体を分母にして活動状況を見ると、調査時点で就職先を決定して活動を終了した者の割合は67.2%。内定率自体の低下と、内定を得ても決定に至らない学生の増加で、決定者の割合は前年(73.2%)を6ポイント下回る。

複数内定を保留しているなど就職先未決定である者(7.6%)を合わせて、活動終了者は74.8%。活動継続者は「内定あり」(12.6%)、「内定なし」(12.6%)を合わせて25.2%。

文理別に比較すると、文系は内定保持者も含め3割近くが継続中と回答(計28.4%)。先月調査(計43.5%)より大きく減少したものの、理系(計17.9%)に比べれば継続率は高い。



## 2. 7月1日現在の就職活動量

7月1日現在の就職活動量(活動社数)を表にまとめた。

一人あたりのエントリー社数の平均は25.3社。3月の解禁時点から前年同月をやや下回る社数で推移し、7月時点では前年より0.6社減。会社説明会の参加社数は前年と同水準を保っているが(16.6社)、エントリーシート(ES)の提出社数は約2社減少(13.8社→12.0社)。本選考を受ける企業の絞り込みが進んだ様子が表れている。筆記試験、面接の受験社数も前年を下回る。面接を受けた企業7.7社のうち、最終面接まで進んだ企業は平均3.3社。最終までの到達率は上昇したものの、社数としては前年(3.5社)を下回る。こうした活動量の減少が内定率低下に影響しているとみられる。

### <7月1日現在の就職活動の状況(活動社数)>

	(社)					
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー	25.3	25.9	28.3	26.5	19.0	23.5
会社説明会参加	16.6	16.6	16.3	19.6	12.3	14.2
エントリーシート提出	12.0	13.8	13.2	13.1	9.0	10.2
うち、通過した社数	8.5	9.9	9.6	9.2	6.6	6.8
筆記・適性テスト受験	9.3	9.9	10.9	9.3	7.2	7.7
グループディスカッション受験	3.0	3.0	3.4	3.0	2.6	2.2
面接試験受験	7.7	8.9	9.0	7.8	6.1	6.0
うち、最終面接	3.3	3.5	3.6	3.3	2.9	2.7

※それぞれ経験者を分母に平均社数を算出(最終面接社数は、面接試験を受けた者を分母に算出)  
 ※オンライン形式も含む

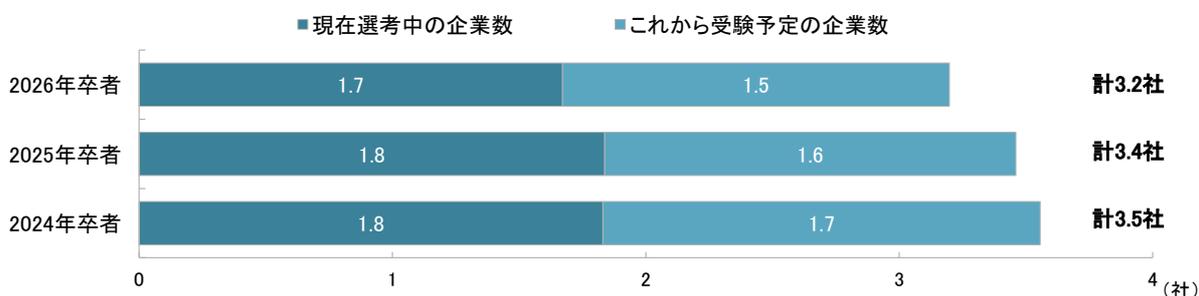
### 3. 就職活動継続学生の動向

内定保持者も含め、7月1日時点で就職活動を継続している学生（モニター全体の25.2%）の、「現在選考中の企業数」は平均1.7社。「これから受験予定の企業数」の1.5社を足し合わせた、いわゆる持ち駒企業数は3.2社。前年・前々年を下回る。

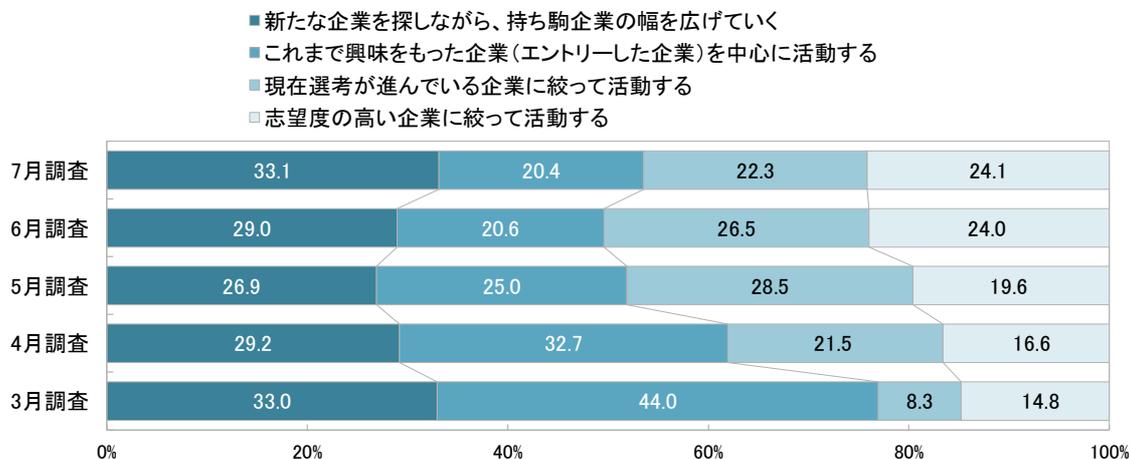
今後の方針・戦略について見てみると、「新たな企業を探しながら、持ち駒企業の幅を広げていく」と回答した者の割合が今月も最も多く（33.1%）、5月調査を底に増加傾向にある。持ち駒企業が減っていく中で、視野を広く持ち活動の仕切り直しを図ろうとする様子が見えてくる。

持ち駒企業を増やすために見直すこととしては、「志望業界の見直し」（29.1%）を考えている者が最も多く（29.1%）、次に「志望職種の見直し」（24.8%）、「志望企業の規模の見直し」（14.2%）と続く。

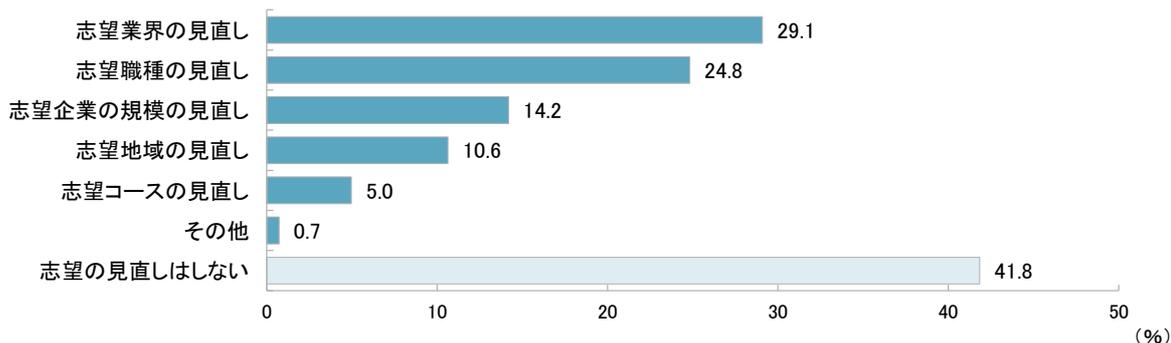
<7月時点の持ち駒企業数>



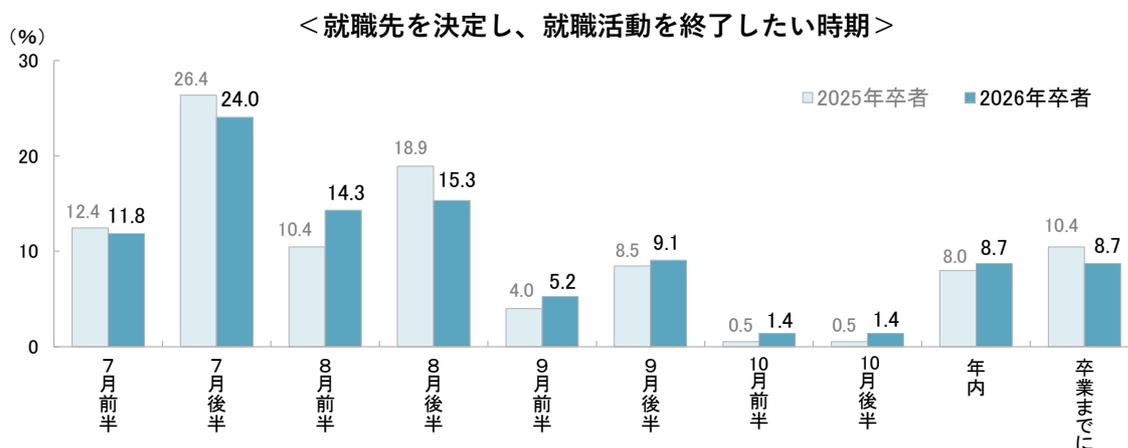
<今後の就職活動の方針・戦略>



<持ち駒企業を増やすために見直すこと>



就活継続者が就職先を決定して活動を終了したいと思う時期は、今年も「7月後半」(24.0%)が最も多い。7月前半から8月後半までを合わせると6割超(計65.4%)となり、夏のうちに就職活動を終わらせたいと考えている学生が大半を占める。一方で、正式内定日の10月1日以降も就活を継続するという回答が2割程度(計20.2%)あり、時期にとらわれることなく、自分に合った企業を探したいという学生も一定数いることがわかる。



#### 4. 就職決定企業について

ここからは就職先を決定して就職活動を終了した学生(モニター全体の67.2%)のデータを確認したい。まず、就職決定企業の業界を見ると、文理ともに「情報処理・ソフトウェア」が今年も1位だが、理系は「電子・電機」も同率で1位となった(前年は4位)。

文系の2位は前年と同じく「銀行」。前年5位の「運輸・倉庫」が順位を上げ3位となり、以下、4位「調査・コンサルタント」、5位「建設・住宅・不動産」と続く。理系は前年同様「自動車・輸送用機器」が3位で、4位「建設・住宅・不動産」、5位「医薬品・医療関連・化粧品」の順。

##### <文系>

2025年卒者		%	2026年卒者		%
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	13.8	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.3
2位	銀行	8.5	2位	銀行	9.5
3位	調査・コンサルタント	6.0	3位	運輸・倉庫	5.7
4位	建設・住宅・不動産	4.9	4位	調査・コンサルタント	5.4
5位	商社(専門)	4.7	5位	建設・住宅・不動産	5.2
	運輸・倉庫	4.7	6位	官公庁・団体	4.6
7位	その他サービス	4.5	7位	情報・インターネットサービス	4.1
8位	保険	4.3	8位	保険	3.9
9位	電子・電機	4.0	9位	商社(専門)	3.8
10位	マスコミ	3.2	10位	電子・電機	3.4
	エネルギー	3.2			
	ホテル・旅行	3.2			

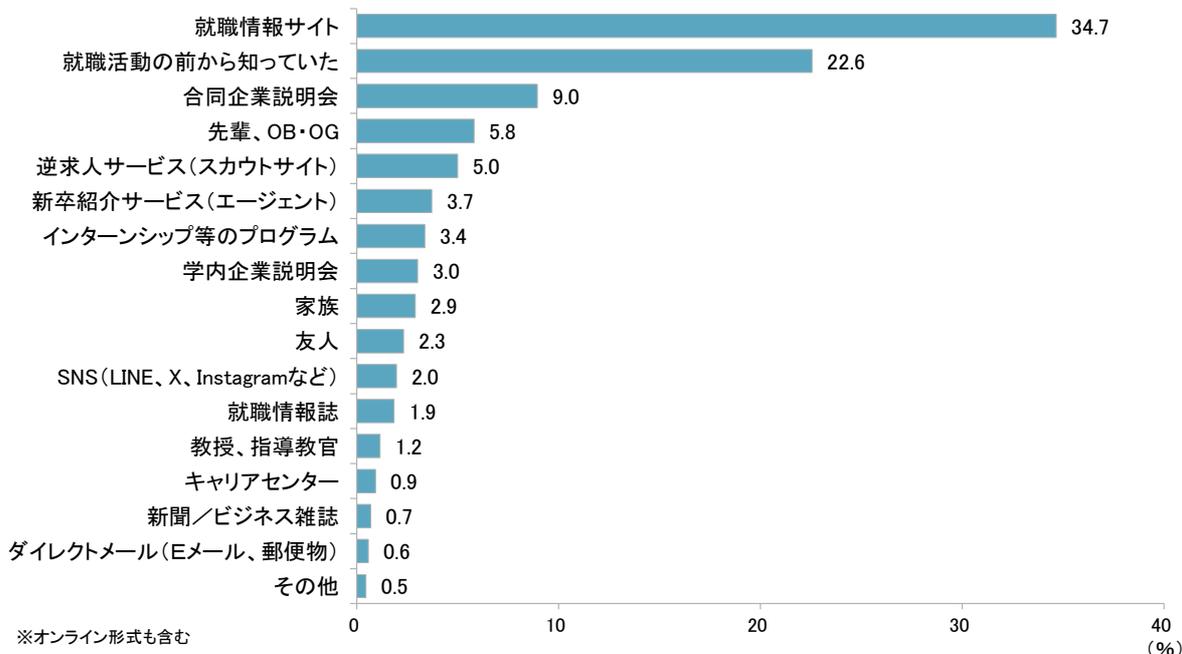
##### <理系>

2025年卒者		%	2026年卒者		%
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	13.6	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.7
2位	建設・住宅・不動産	11.6		電子・電機	11.7
3位	自動車・輸送用機器	10.5	3位	自動車・輸送用機器	9.3
4位	電子・電機	8.2	4位	建設・住宅・不動産	9.0
5位	素材・化学	7.4	5位	医薬品・医療関連・化粧品	7.0
6位	機械・プラントエンジニアリング	6.3	6位	調査・コンサルタント	6.7
7位	医薬品・医療関連・化粧品	5.7	7位	素材・化学	6.3
8位	水産・食品	5.4	8位	機械・プラントエンジニアリング	4.3
9位	調査・コンサルタント	4.3		官公庁・団体	4.3
10位	精密機器・医療用機器	3.4	10位	精密機器・医療用機器	3.7

※40業界のうち上位10業界を掲載 ※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

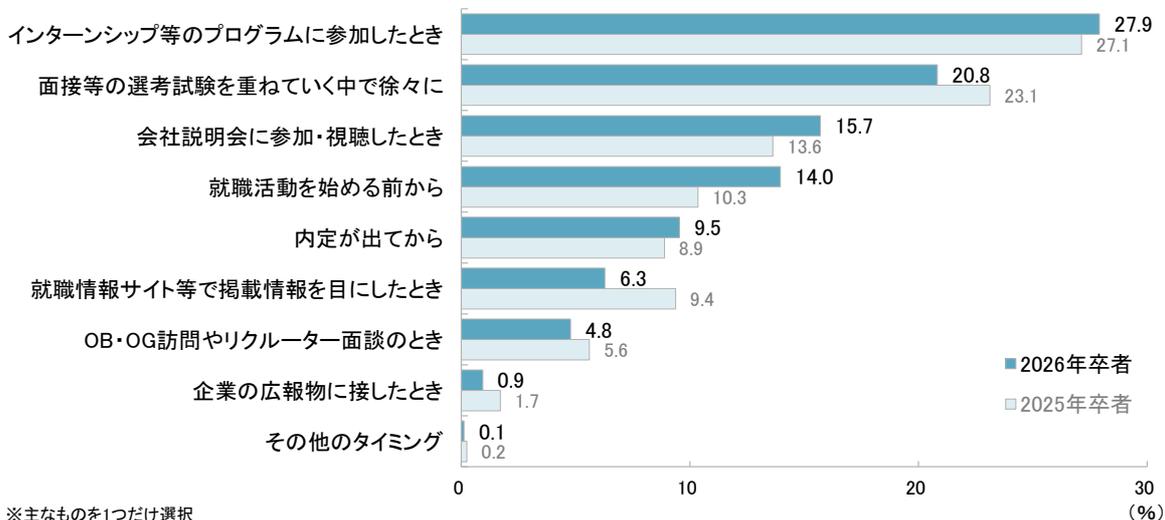
就職先として決めた企業を知ったきっかけは、「就職情報サイト」が34.7%と圧倒的に多い。学生が企業に出会う場として、大きな役割を果たしていることがわかる。次いで「就職活動の前から知っていた」が22.6%、「合同企業説明会」(9.0%)と続く。以下はポイントが分散しており、様々なサービスやメディア、人との繋がりなど、企業に興味をもつきっかけは多岐にわたっているようだ。

<就職決定企業を知ったキッカケ>



就職先企業で働きたいと思ったタイミングを尋ねると、「インターンシップ等のプログラムに参加したとき」(27.9%)が前年に引き続き最多。また、「会社説明会に参加・視聴したとき」は前年より2.1ポイント増えた(15.7%)。こうした場で社風や仕事内容などの情報を社員から得ることで、入社後の具体的なイメージが湧き、選考へと進む学生が多いのだろう。「面接等の選考試験を重ねていく中で徐々に」は、前年調査よりポイントが下がったものの2番目に多く(20.8%)、面接官との対話も学生が入社意欲を高めるきっかけとなっていることがわかる。

<就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミング>



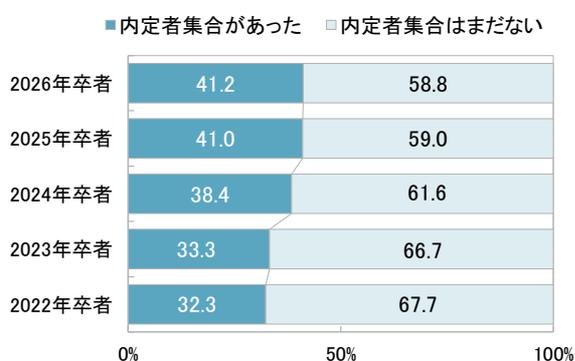
## 5. 就職決定企業の内定者集合

就職先を決定して就職活動を終了した学生に、内定者集合について尋ねた。

7月初旬の調査時点で「内定者集合があった」という回答は今年も4割を超える(41.2%)。参加形式については、コロナ禍だった4年前はオンライン形式が8割を超えていたが(81.9%)、以降は減少し、この数年は対面形式が主流となっている。

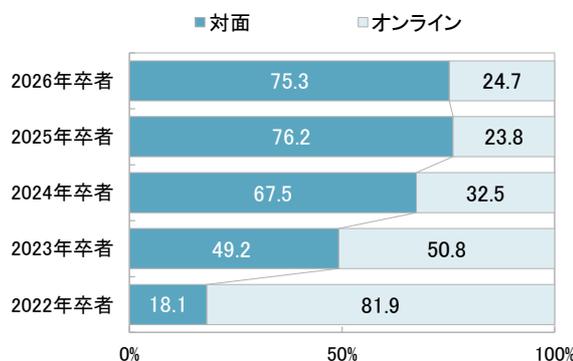
参加した学生の声を確認すると、対面形式は職場見学や先輩社員との食事会が多く、学生が参加しやすいよう地域ごとに開催している企業もあるようだ。オンラインでは、若手社員との座談会のほか、ワークやレクリエーションを通し交流を深めた様子が報告された。企業も内定後のフォローに注力し、対面・オンラインそれぞれの利点を生かして学生との接点を保っている様子が読み取れる。

<就職決定企業の内定者集合の有無>



※各年7月調査

<内定者集合の形式>



### ■内定者集合の内容

#### 【対面】

- 自己紹介や先輩社員との座談会があった。自社商品を使った販売品の試食もあった。 <水産・食品>
- 内定者研修。グループに分かれてお仕事内容のプチ体験をした。 <人材サービス>
- 社員の方と交流し、働き方や福利厚生など自分の気になることを気軽に相談した。また、同じく内定した学生同士で就活の話をするなど盛り上がった。 <専門店>
- 内々定者向けの会社説明会。給与や福利厚生など詳しい説明をたくさん聞くことができた。 <旅行>
- 内々定者同士での交流、数名の人事社員や現場社員との座談会。食事やお酒含む飲み物が用意され、会社の食堂エリアで懇親会を開催した。研修や現場の経験、住まいのエリアに関する情報が得られた。 <情報処理・ソフトウェア>
- 早期選考の合格者限定で、直営のレストランでランチをしながら先輩社員と話した。 <運輸>
- 内々定者の懇親会。人事の方からのお話や本社の見学、親睦を深めるゲーム、懇親会など、様々な企画がありました。 <素材・化学>
- 同じオフィスに配属予定の内々定者と同じ地域に通っている人向けの内々定者懇親会でした。 <コンサル>

#### 【オンライン】

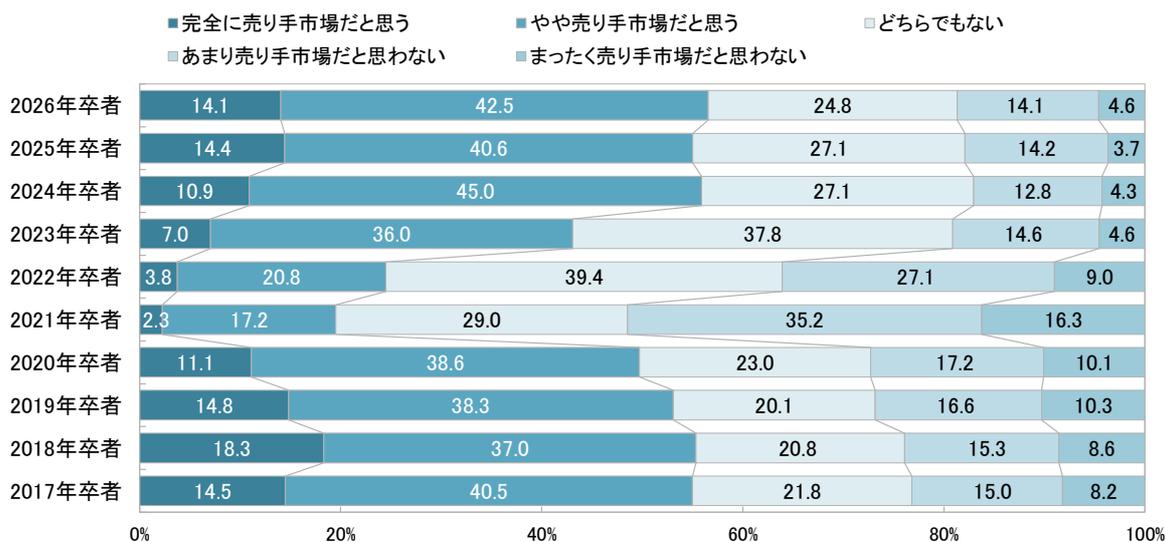
- 内定者懇談会。食事とお酒が自宅に届き、オンラインで話したりなどした。 <情報処理・ソフトウェア>
- トークイベントで各分野の社員の方が自分の分野について説明して下さった。質問などができた。 <インターネットサービス>
- 内定者同士の自己紹介や、会社に関するクイズを協力しながら答えるレクリエーションがあった。 <専門商社>
- 内定者懇親会でゲームを行いました。また、企業の最新のトピックスについて説明していただきました。 <医薬品・医療>
- 内定者の交流と、働き方についてのセミナー。働く際の不安を聞いて下さった。 <銀行>

※<決定企業の業界>

## 6. 就職環境への考え (売り手市場の実感)

就職活動を通して、自分たちの就職環境をどう捉えているのかを全員に尋ねた。「完全に売り手市場だと思う」「やや売り手市場だと思う」を合わせると56.6%となり、「売り手市場」を実感する学生が今年も半数を優に超える。10年分の経年比較を見ると、コロナ禍を挟んで、就職環境は学生の日から見ても良好だと思える状態が続いている。但し、寄せられた声を見ると、内定を得ること自体は難しくなくても人気企業の内定獲得は別との指摘も散見される。

<就職環境への考え (売り手市場の実感)>



### ■就職環境への考え

#### 【売り手市場だと思う】

- 複数内定を持っている人が自分を含め周りに多くいるから。 <文系女子>
- 就職先を選ばなければ、内定をいただくことは難しくないと感じる。7月になっても説明会を開いている企業もあり、人手が不足している企業も多いと感じる。 <文系男子>
- 基本的にウェルカムで、落とそうという選考でなく、いい人を探っていきたいという気持ちが感じられる選考ばかりだったため。 <文系女子>
- 先輩から聞いていた以上に、本選考での書類通過率が良かったため。通るとは思っていなかった企業の最終面接を受けることもでき、学生が興味のある企業にチャレンジしやすい環境だと思った。 <理系女子>
- どの企業も初任給を急激にベースアップしているから。 <文系男子>
- オファーもどんどん来るし枠が少ないとは感じなかった。 <理系男子>
- 就職氷河期時代の話を知ると、断然売り手市場だと感じる。 <理系女子>

#### 【どちらでもない】

- 業種によってあまりにも売り手市場か否かが違いすぎるような気がする。一括りに売り手市場とは言えないと思う。 <文系男子>
- 内定率は高いと思うが、優位とは思わない。 <理系女子>

#### 【売り手市場だと思わない】

- 準備をきちんとしないと受からないと感じたことが多かったから。 <文系男子>
- 誰でもよいというわけではないと感じた。会社側はふさわしい人を何度も面接を行い選んでいた。 <理系女子>
- ニュースなどでは26卒はほぼ就活が終わっているとあるが、私を含めまだ内定がなかったり、納得した内定をもらっていないかたりして就活を続けている子がたくさんいる。 <文系女子>